

E あきた教養講座 ～秋田のこれまで・秋田のこれから～ **有料講座**(1回440円)
(定員100名) 会場：秋田県生涯学習センター
 様々な分野・観点から秋田を学び、秋田のよさを再発見することを通じて、今後の社会生活を豊かにする講座です。

日	時	テーマ	講師
E1	5/9 (土)	【交流①】 秋田とアジア、海が繋いだ交流の歴史	秋田大学教育文化学部地域文化学科 国際文化コース 教授 渡辺 英夫 氏
E2	6/13 (土)	【交流②】 私たちにもできる国際交流のかたち ～今まで・これからの取り組み～	秋田県観光文化スポーツ部 文化振興課 調整・文化振興班 主事 櫻庭 武蔵 氏
E3	7/18 (土)	【戦争①】 秋田戊辰戦争 ～史料から探る戦争の本質～	秋田県教育庁生涯学習課 生涯学習・学芸振興班 学芸主事 畑中 康博 氏
E4	8/8 (土)	【戦争②】 記憶と記録 ～秋田県の戦争遺跡をたどって～	秋田大学教育文化学部学校教育課程 教育実践コース 教授 外池 智 氏
E5	8/29 (土)	【スポーツ】 転ばぬ先にできること ～生涯スポーツの立場から見る転倒予防～	秋田県立大学 総合科学教育研究センター 准教授 内山 応信 氏
E6	9/12 (土)	【音楽】 小松耕輔、そして二つの県民歌 ～小松耕輔がふるさとに描いた音楽像はいかなるものか～	秋田県合唱連盟 理事長 廣田 俊介 氏
E7	10/10 (土)	【美術①】 旅するイメージ ～世界の中の秋田蘭画～	国際教養大学 国際教養学部/アジア地域研究連携機構(兼任) 准教授 阿部 邦子 氏
E8	10/31 (土)	【美術②】 秋田のアートの動き-2020年版 ～街のギャラリーから見えてくるもの～	ココラボラトリー 代表 後藤 仁 氏
E9	11/14 (土)	【鉱業①】 院内銀山の日々 ～「門屋養安日記」の世界～	秋田県歴史教育者協議会 会長 茶谷 十六 氏
E10	12/12 (土)	【鉱業②】 先端技術を支える秋田の鉱業 ～資源の宝庫・あきたの底力！～	秋田大学大学院国際資源研究科 資源地球科学専攻 専攻長・教授 渡辺 寧 氏

E1 9月5日(土) 秋田とアジア、海が繋いだ交流の歴史

秋田大学教育文化学部 教授 渡辺 英夫 氏

秋田高清水岡の「出羽柵」が、760年頃「阿支多(アキタ)城」と改称されました。発掘から、豚肉に含まれる寄生虫が発見され、当時豚肉を食べる習慣がなかった日本人以外との国交が推測されています。中世は海洋豪族の安東氏が活躍し、14世紀にはアイヌ交易により得た北海道産物である鮭、昆布を京都に送っていました。近世に入り、北前船により大阪や北海道との交流が始まり、近代の土崎湊の発展、ウラジオストクとの定期航路開設につながりました。そして現代、韓国とのコンテナ便航路、ダイヤモンドプリンセス号などのクルーズ船が運行しています。海が繋いできた交流の歴史について、時代の流れと出来事で学びました。

E2 9月26日(土) 私たちにもできる国際交流のかたち ～今まで・これからの取り組み～

秋田県観光文化スポーツ部 主事 櫻庭 武蔵 氏

櫻庭さんのルワンダ、ウガンダでの青年海外協力隊の経験を基に、現地の職業訓練校での支援活動、食事やインフラなど生活に関する事を学びました。職業訓練校では起業、接客、調理などを学ぶそうです。櫻庭さんからは、停電は3ヶ月続いても、笑顔があり、助け合っている人々に触れた経験から、豊かさとは何か、当たり前とは何かという問いかけがありました。後半にはボランティアは誰にでもできるし、できることからやってみる、というメッセージがあり、講座終了後も参加した高校生、大学生からの質問が続いていました。

E3 7月18日(土) 秋田戊辰戦争 ～史料から探る戦争の本質～

秋田県教育庁生涯学習課 学芸主事 畑中 康博 氏

はじめに、1867年当時の政治情勢や、東北戊辰戦争が勃発した流れ等を年表で確認しました。そして、様々な史料からは、戦争中の出来事について多くを知ることができます。「貝塚久吉日記(個人蔵)」から、戦時下では秋田藩士は薩摩藩の命令下でないと動けなかったことが分かっています。当時発行されていた「太政官日誌」は、現在でいうところの新聞の役割があり、戦況の報告と同時に、新政府軍の力を示す側面もありました。史料の読み方やその意味、戊辰戦争の大変さについて考える機会となりました。

E4 8月8日(土) 記憶と記録 ～秋田県の戦争遺跡をたどって～

秋田大学教育文化学部 教授 外池 智 氏

秋田県の戦没者(昭和12年以降)は34000人を超えています。戦前生まれは19.8%となり、戦争体験の記録、記憶を残すことは大切です。戦争遺跡とは、主に近現代の戦争に関わる遺跡、遺構を指します。秋田県戦争遺跡研究会では、68件の遺跡を発表しています。その遺跡には、1つ1つのストーリーが重要です。例えば田沢湖の姫観音像は、魚と湖神の慰霊で建てられました。その魚が絶滅した原因は国策で水力発電のために水質を改善したことが起因しています。

秋田には間接的な戦争遺跡も、多数残されています。

E5 8月29日(土) 転ばぬ先にできること ～生涯スポーツの立場から見る転倒予防～

秋田県立大学 総合科学教育研究センター 准教授 内山 忠信氏

転倒とは、本人の意思からではなく地面または低い面に身体が倒れることです。65歳以上は転びやすい体になります。筋力は50歳から減り、体性感覚や平衡感覚も鈍くなります。秋田県は雪国ゆえのけがも多く、骨折、転倒は要介護の要因の4位となっています。加齢による運動不足で身体機能の低下が加速すると、社会的・心理的な加齢にもつながります。しかし筋肥大率は高齢者、青年でほぼ変わらないため、体操による効果が大きいと期待できます。講座では、音楽に合わせて筋力をアップする体操も体験しました。

E6 9月12日(土) 小松耕輔、そして二つの県民歌～小松耕輔がふるさとに描いた音楽像はいかなるものか～

秋田県合唱連盟 理事長 廣田 俊介氏

小松耕輔は、矢島高等小学校で木内喜七先生の音楽教育と出会い、「音楽者」の道を選択します。小松は日本独自の西洋音楽を目指し、日本初のオペラ「羽衣」を作曲します。また、作曲家協会の初代会長になりました(現在の「日本音楽著作権協会」JASRAC)。さらに、音楽の社会化運動にも力を注ぎ、「コンクール」を作りました。これは現在の「日本合唱コンクール」の基礎になっています。

E7 10月10日(土) 旅するイメージ ～世界の中の秋田蘭画～

国際教養大学 国際教養学部 准教授 阿部 邦子氏

文化が影響を受け、成長していく「旅するイメージ」は、秋田蘭画にもあてはまります。秋田蘭画は18世紀後半、秋田藩の武士たちによる、日本初の西洋風絵画の派を為した阿蘭陀風絵画です。主要な画家は大名の佐竹曙山、家臣の小田野直武の二人です。小田野直武は、平賀源内の元で修行し、日本初の西洋医学書である、解体新書の挿絵画家となりました。秋田蘭画は浮世絵にも影響を与えました。そして浮世絵が西洋の画家に影響を与える、といったブーメラン現象について、絵画、さらに建築の例と共に学びました。

E8 10月31日(土) 秋田のアートの動き2020年版～街のギャラリーから見えてくるもの～

ココラボラトリー 代表 後藤 仁氏

秋田市大町にあるココラボラトリーは、2005年にビルを自分たちで修繕し、オープンしました。ココラボラトリーには「地域(ここ)」「個人(個々)」「共同(co)」の意味が込められており、アート、工芸、公演、ライブなど、ギャラリーを超えて人や物や事が繋がる「場」となっています。「未来の展覧会チケット」などの企画や新しい日常を取り上げた「哲学カフェ」、ダンサーの加賀谷葵氏による小さなダンス公演「ダンス、おひとついかがですか?」など様々な工夫により、コロナ禍でも繋がりを生み出しています。

E9 11月14日(土) 院内銀山の日々 ～「門屋養安日記」の世界～

秋田県歴史教育者協会 会長 茶谷 十六氏

門屋養安は院内銀山の医師で、天保6年(1835)～明治2年(1869)までの35年間の日記のうち、32年分が秋田県公文書館に所蔵されています。茶谷氏が6年間かけて行った全文解読とデジタル化により、院内銀山町の生活や文化について、誰でも短時間で調べることができるようになりました。当時は江戸や大坂から歌舞伎、浄瑠璃、大相撲も行われました。院内銀山は、当時のままの形で残っている史跡も多く、世界遺産への登録も期待されていることなどを学ぶ機会となりました。

E10 12月12日(土) 先端技術を支える秋田の鉱業 ～資源の宝庫・あきたの底力!～

秋田大学大学院国際資源研究科 教授 渡辺 寧氏

秋田県の鉱物として「黒鉱」があります。1500万年前に海底火山活動によって海底に沈殿した方鉛鉱などからなり、銅、鉛、亜鉛、金、銀や多種類のレアメタルを含んでいます。明治中期から昭和にかけて盛んに採掘されました。現代では金属分離技術によりガリウムというレアメタルが生産され、日本人のノーベル賞受賞にも貢献しました。講座では、渡辺先生が持ってきてくださった黒鉱と、その中の金を見る機会もありました。重量感や金の輝きを、受講者の方も体験できました。